

甲府市食育推進計画検討委員会 平成30年度第3回会議 議事録

1 日 時 平成31年1月31日(木) 午後6:30~8:30
場 所 甲府市役所南庁舎2号館 2階 大会議室

2 出席委員(50音順)

井上委員、隈部委員、小林委員、須田委員、田草川委員、武井委員、玉川委員、
服部委員、早川委員、深沢委員、藤井委員、藤澤委員、古屋委員(代理)、
松谷委員(14名)

3 欠席委員

青柳委員、神宮司委員

4 議 題

(1) 第3次甲府市食育推進計画(素案)の検討について

- ①計画の組立について
- ②重点課題について
- ③施策の体系について
- ④第3次計画の目標値について
- ⑤食育推進の取組について

(2) その他

5 傍聴者の定員と傍聴者数

傍聴者定員 5名
傍聴者数 0名

6 議事の要旨

議題(1) 第3次甲府市食育推進計画(素案)の検討について

- ①計画の組立について
- ②重点課題について

議長

ご意見・ご質問がありましたら、ご発言をお願いします。

A 委員

バランスの良い食事の状況の説明に、全国調査とありますが、この全国調査とはどんな調査なのか。全国調査の出典を教えてください。

4つの重点課題の「健康寿命の延伸に向けた取組」というテーマで、低栄養や肥満というご指摘があって、そのとおりだと思いますが、健康寿命の延伸となりますと、科学的根拠はないですが、近所付き合いとか、社会環境、社会とつながるということも大切なことです。

例えば、高齢者の方が時々集まって話をしたり食事をしたり、食改さんが行なう高齢者の料理教室なども含め、ソーシャルネットワークのような表現も、健康寿命の延伸に向けた取組の中には、入れてもいいのではないかと感じました。

事務局

重点4の健康寿命の延伸に向けた取組として、食生活改善推進員会に実施していただいている高齢者食育元気会や、地区での食事会、歯つらつ歯っぴーキャラバン等に参加するという内容も含めたかたちで考えていますので、社会とのつながりというのは、健康寿命の中では大切な要素だと考えています。

調査につきましては、国の第3次食育計画の内閣府が行いました食育に関する意識調査の結果を抜粋していますので、出典については記載していくようなかたちで対応したいと思います。

議長

社会参加という言葉は、具体的には入らないということになるのでしょうか。

事務局

少し表現を検討させていただきます。

A 委員

少しでも入れたほうが、ここだけを見た人が、食のことだけ、低栄養、肥満だけのことだと思ってはいけないので、入れたほうがいいかと思います。

事務局

社会参加、社会とのつながりという文言を入れるかたちで、再度、考えたいと思います。

議長

他にはいかがでしょうか。

B 委員

まず、良くまとまっていると思うのですが、幾つか疑問に思ったことがあります。

今まで、活発な意見があつて、多角的な意見が出ました。でも、それを、何か決まった章に落とそうとしているように感じて、つまり、決まった形式の中に当てはめていませんか。

今回の特徴というのがなく、議事の内容を集約し、定型された文章の中に落としているだけのような気がします。1回目、2回目、3回目と出させてもらったから、そう思うのかもしれないです。

経過をまとめるにしても、何か、共通した人材がやっていない。3つぐらいグループがあつて、それをまとめてやっているような気がします。例えば、健康寿命を延ばすという部分に関して、もしこういうことを言いたいのであれば、課題が違います。低栄養と肥満です。

この間、11月に話をした長い会議の内容が組み込まれていないような気がします。

今回、工夫されたこととか、すごく困ったことがあると思います。これは、どうやればいいのか、そういうことを、むしろ事務局から教えていただくと、細かいところをつつくのではなくて、「こうしたほうがいいのか」という話になるかと思ひます。いかがでしょうか。

事務局

前回、いろいろ意見をいただいた中で、重点課題をまとめるにあたって、検討したところですが、まず「自分の体型に対する正しい認識を培う取組」という表現にしても、自分の体型をどう認識するかということと、調査の中で出てくる結果を、いかに課題として表現したらいいか、こちらのほうでも、検討をした内容であるということと、子育て世代、働き盛り世代の欠食を減らすというところが、やはり、11月の会議の中でも、具体的にどうしていったらいいかという大きな方法がない中、そうはいっても欠食が多いということは、とても大きな課題になるので、どう重点課題として挙げていったらいいかというところは、だいぶ考えた内容となっています。それで、こういう表現にしたところです。

B 委員

まず、文章が、毎回、毎回変化がない。

今回には今回の、3回目なら3回目の言い回しがあると思います。第1次、第2次のものと比較して、第3次がこうだという特徴があつていいと私は思ひます。けれども、もう決まったかたちがあつて、それに入れ込もうという傾向はないでしょうか。

私たちが、一番今回言ひたいのは、4つの柱だと思ひます。それが、前面にあつていいように思ひます。後ろのページでは、「ああ、そうだったんだ」と思わせるまでに時間がかかります。

そうではなく、これだけ時間をかけて、事務局も懸命にまとめたわけですが。そうしたら、それを改革したつていいと思ひます。書き方自体に捉われすぎて、この文章にしなないといけないう文章化がされています。そこに収めるのではなくて、もっと、今回の

特徴を出さないと、これでは申し訳ないですが、時間をかけて私たちが話をしても、結局、行政の決まった文章なの？となりませんか。

私は、これを読ませていただいて、そう思いました。決まった文章があつて、最初に、終わりありきで作っているような。だから最後まで読まないで、また結局、第3次の特徴が分からない、結局、1次、2次と同じで、ちょっと上げました、ちょっと下げました、で、こうなりました。

では、何のために時間をかけているか、疑問に思ったのです。そちらにはそちらの都合があつて、困ったこともあると思うので、正面切って質問させてもらいました。

事務局

おっしゃるとおり、計画の流れというのが、やはり計画の趣旨、国からどういうふうの流れで、県がどうで市という、どちらかという定型的な文章から入るといのは、実際、B委員がおっしゃるとおりだと思っているところなのですが、やはり苦しいところがあります。

第2次までは、重点課題を出していなかったのですが、今回は、11月のときに意見交換をして、やはり重点的に取り組む課題というのを整理したほうがいいということで、今回、重点課題を4つ整理させていただきましたが、やはり、この計画の流れを見ると、本当に状況から見ていかないと、なかなか、その重点課題にたどり着かないといのは、B委員がおっしゃるとおりですので、そこをどう見せていくかは、冒険にもなるのですが、もう少し考えさせていただければと思います。

ただ、本当に、1次、2次にない重点課題というところは、ぜひ、市民の方々にも知ってもらいたいし、皆で取り組んでいきたい内容を4つに絞ったというところは、ぜひ、計画の中でも目立つようなかたちで考えていければいいかと思います。

B委員

これをガラリと変えることはなかなか難しい。それは重々、分かります。

山梨県の特徴というか、甲府市で甲府市の特徴が出ました、それを、一番最初にポーンと載せることは難しいですか。

例えば、計画策定の趣旨はほとんど変わっていません。

もし、可能であれば、一番最初に「食育とは」は、皆、もう分かっていますから、今回はこう、それに対して、食育とはこういうことでこうなって、今までやってきたけれど、前に比べてこういう傾向だというデータが最初に出て、それからつなげていかれたほうが、「今までと違うぞ」、「これから変わるぞ」、「世の中、変化してきているんだ」ということを反映することができるような気がします。

せっかく出したものが裏に行つて、前に出てこないように思います。「これ、1次とどう違うの？」まず、そこです。「どこ？」っていうことで、「いや、実はここが」という説明はしたいところです。いろいろ壁はあると思いますが、よろしくお願いします。

事務局

今、意見をいただいて、計画を組み立て直すというところがなかなか厳しい部分もあると思いますので、できましたら、これに沿って、概要版を作る予定になっていますので、概要版に、4つの重点課題を分かるようなかたちで、少しまとめさせていただく方向で、考えていければと思うのですが、いかがでしょうか。

B 委員

概要版だと、またお金がかかるわけですね。その予算はどうですか。

事務局

もともと、概要版は作る予定でいました。その中身については、この計画の本当に見てもらいたいところを抜粋するということで、まだ、素案のところまではできていないのですが、1次、2次との違い、どこが違って、3次では何をするのが分かるようなかたちで概要版を作らせていただき、また概要版を中心に、市民の方にも周知の媒体として活用できればと思います。

やはり計画も100ページあると、なかなか読むのが大変ですので、概要版を活用する方向で考えさせていただければと思いますが、いかがでしょうか。

B 委員

せっかくやっていることなので、進歩しないと、やっているだけで見もしないと思います。見てもらえないと、広がらないような気がします。よろしくお願いします。

C 委員

私も、1次、2次からずっと携わらせていただいて、これは、国の食育推進計画があって、それが1次、2次、3次とつながって、それに対して県も食育推進計画を立てるということになっていて、更に市町村は、各地域の実情に応じた計画を立てるということになっているはずです。

国、県、市を見て、もちろん、同じスタイルで作らざるを得ないと思っているし、こういう作り方はやむを得ないとは思っているのですが、やはり、せっかくやるからには、甲府らしさが前面に出るようにしないと、国の目標値、県の目標値、目標や大枠はそんなに変わらないかたちで、それを見ると、だいたい方向性が見えて、これを作るのに必要な、甲府は何をしていったらいいのかということが参考になる計画だと思っているわけです。

健康寿命が山梨は日本一なので、そことつないで食の問題が、もっと明確にクリアにできればいいと思うのです。先ほど、ソーシャルキャピタルの話が出て、一つの要因としてはそれがあります。

食に関しても山梨は海産物、果物、水、太陽、いろいろな要素があって健康寿命日本一

だということなのですが、一つ一つの要素が、じゃあ、健康寿命を何歳延ばすかというエビデンスが何も無い。

健康日本 21 も目標値に健康寿命を作っていないのは、おのこの要素が、どれだけ影響して健康寿命を延ばすかということが明確でないからです。

本来ならば、甲府、山梨が健康寿命日本一ですから、食の問題は絶対にかかっているはずなので、じゃあ、食のここを伸ばそう、健康寿命を延ばすために野菜を食べよう、とすべきで、ただ、なかなか、それをエビデンスとして、「これを食べれば」と一言では、分析して文章にするのは難しいことも分かるので、これを読んで、甲府で何をを目指すのか、他と何が違うのか、それから 1 次、2 次の結果から本当に、この重点課題が今回のアンケートで分かったことなら、これを前面にもって行くのは B 委員の言うとおりでと思います。

あまり、「食育とは」とか、そういう文章が最初にあると、読みにくいです。だから、最初に、インパクトのあるもの、それから、1 次、2 次のときには、「ふう・りん・か・ざん」とか、「よく噛んで おいし食たのし食 バランスよ食」をキャッチコピーとして出していたはずで、これは、表紙に載せますよね？せっかく、これはつなげていたのだから、載せたほうがいいと思いました。

甲府の独自で展開しているものや、もっと前面に出したこういう計画が、私たちが言ったことも、確かに書いてはくれていますが、埋もれて、市の事業一覧の中に入っているだけです。

じゃあ、どういうところを目指すのか、われわれがやっているところも甲府らしさでやっているはずだけれども、そういうところが前面に出ていますか。行政と一緒にやらせてもらっているの、こういうもので見えてくると感じました。

A 委員

市のほうでも言われましたように、ダイジェスト版が回って、県のダイジェスト版も、やはりこのスタイルの縮小版で、最後を見ないと、何をするか分からないというのがるので、市のスタイルが許されれば、今年度、第 3 次でやることをトップにもってきて、「これ、やるのか」、なんでやらなければならないかという食育基本法のことは、下や裏に、少しでもいいかもしれないです。

食改さんの総会資料を、今年度、こういう事業をやりました、会議をこれだけやりました、研修会をこれだけやりました、自分たちの活動として、市民にこういう活動をしました、というのが一番最後になってしまいます。

それは一番前にもってきて、「食改さんって、市民にこういうことをやってくれているのか」ということを、まず見てもらう。こういう活動をやっている、生活習慣病予防が何千人に影響を与えている、ということが見えるように総会資料を作ったら、と言って、そのとおりにやってくれている町村もあります。

目的がパッと見えるように。ダイジェスト版のほうが、大勢、市民の方が見ると思うの

で、ダイジェスト版のほうに、「変わっているね」、「これ、やるんだ」というのを入れたらどうかと思います。

議長

だいたい、なんとなくイメージはできたのではないかと思うのですが、また、そちらのほうでのご検討もあるかと思います。事務局のほうからございますか。

事務局

今、いただいた意見が反映できるような概要版を頑張って作っていきたいと思います。

議長

他にご意見ありますか

A 委員

死因別死亡率ですが、糖尿病で亡くなる方が 27 人、20.6%で、全国平均は 10.8%、糖尿病という病気でこんなに亡くなるのかどうか。

もし、こんなに倍も多いということはすごいことであって、やはり、肥満からもきているのだと思いますので、市民に、適正体重を意識して、適正体重を守るということを、第 3 次では、皆に分かってもらいたい。

それは、食事や運動であったりするのかもしれませんが、それは何のためかという、生活習慣病にならないためということです。この糖尿病はすごいデータだと思いました。

事務局

この結果につきましては、人口動態の結果からになりますので、死亡診断書の中で糖尿病と記載されている人数になります。

ただ、やはり甲府市は、全国に比べても 10 位以内に入っているというところで、糖尿病で亡くなる方が多い特徴になっています。

市民の方々にきちんと周知をして、糖尿病になる前、なつてからのコントロールも基準としていくという必要性、やはり、生活習慣病対策というところは、進めていければと思います。

D 委員

そういう意味で体型のことが、子どものことだけになってしまっているような感じもします。もしくは、健康寿命のほうに入るのか、どちらもという感じもしなくもないのですが、糖尿病と腎疾患、腎不全の患者さんの死亡率が高いということについて、あまり触れられてはいないようですが、いかがでしょうか。

事務局

重点2の自分の体型に対する正しい認識を培うというところは、学童のアンケートの中で、やはり大きく、例えば、普通であるのに太っていると思っているということが出ていますので、やはり、ここは子どもさんに焦点を当てた重点的な取組とさせていただき、重点3の欠食を減らす環境づくりというタイトルになっているところですが、そこで、働き盛りの方の食生活スタイルというところで、適正体重の維持をpushさえていければということで、少し世代、ターゲットを絞らせていただくようなかたちで、重点的な課題をまとめさせていただきました。

B 委員

主要死因別死亡数の推移の表については、コメントが必要だと思います。

糖尿病、合併症で亡くなっているわけですが、これを糖尿病と表記していること自体にも。

D 委員

重点の4の健康寿命のほうに糖尿病や腎不全のことを入れていったほうがいいのか、重点3は、欠食を減らす環境づくりなので、なんとなく、私自身は違和感を覚える感じがしました。

重点4の説明の中には、多くの生活習慣病や、いろいろな疾病と関連する肥満という文言も入っていますから、それらをもう少し入れていくかたちのほうが自然な感じが個人的にします。

事務局

健康寿命の延伸に向けた取組のところに、糖尿病に関すること、また重症化予防というところで、糖尿病の合併症の予防という文言を入れるかたちで検討させていただきます。

議長

他にお気付きの点がございましたら、いかがでしょうか。先に進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

議事の(1)の③施策の体系についてと、④第3次計画の目標値について、事務局から、ご説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

③施策の体系について

④第3次計画の目標値について

議長

何かご意見はございますでしょうか。

B 委員

「自分の体型を誤って認識しているやせ傾向児の減少」、目標値 45%の、45%にした理由。また、肥満傾向の減少も目標値 8%以下の 8%の理由を教えてください。

事務局

やせ傾向という子どもさんが増えている中、目標値をどこに置いたらいいか、とても悩んだところと、やはり、あまり達成できない大きな目標を掲げても、現実とかけ離れてしまうというところで、甲府市独自の目標として、45%とさせていただいたところです。

B 委員

これは、資料が一人歩きしてしまっています。

と同時に食事の時間を楽しいと感じる子どもが 80%以上とありますが、なぜ 100%にできなかったかをお伺いしたいです。

事務局

1次、2次で比較をしますと、2次のほうが、食事の時間を楽しいと感じる子どもの割合が減っていましたので、少しでも増やすようなかたちで 80%としました。

B 委員

なぜ、100 でないのですか。100%にしたいです、「できません」が前提ではないですか。

事務局

本来でしたら子どもの皆さんも、楽しいと思いますが、現実的なところを少し考えて、100%と掲げられなかったところが実際です。

B 委員

でも、現場は 100%にしようと思ってやっていますよね、各施設。100%を目指してほしいという意見です。

事務局

今回、悩んだところが、やせ傾向児の減少ではなく、体型を誤って認識している子どもの減少に焦点を当てたところです。

やせ傾向の子どもさんを減少というより、やせているのに自分は太っていると思ったり、普通と思って誤認識をしている子どもを減少させるという目標にしたところで

すが、いかがでしょうか。

B 委員

それは、また論点が全然違います。話す分野が全然違ってきます。それは、また別の観点から。数値で表れるところは、明らかに評価ができます。

事務局

11月の委員会の会議の中で、誤認識の話題も上がっていたので、実際に、やせというよりも、自分の体型を正しく認識するというのが大切ではないかという意見をいただき、甲府市の独自の目標として、挙げさせていただいたところです。

第2次では、目標として、適正体重を維持している市民の割合というかたちで、「20歳代の女性のやせを減らす」、「20～60歳代の男性の肥満者を減らす」ことを目標にしている、子どもさんのやせというところには、目標値を当てていなかったもので、今回、正しく認識できないということに焦点を当てたところです。

B 委員

やせとか肥満は数値で現れます。でも、それが認識度になってくると本人評価になりますから、数値として出せるものはやせと肥満。

自分のことは、太っているのにやせていると思ったり、やせているのに太っていると思ったりすることに対しての本人の認識は数字で表すことはできないので、そこはカバーしておいて、今回の目標は、やせと肥満、明らかに数値で現れるものに関して、少し厳しく、目標の設定を下げる。

誤認識に関しては、アンケートの結果にもよってくるので、課題としては、認識をするということに対しては上げていいと思いますが、それを目標値に落とすことに関しては、少しカバーしていいかと思います。

事務局

今回、アンケートの中で、子どもさんの、身長、体重を記載していただいて、そこから肥満度を計算して、そこと、自分が太っているかと思っているかというところをクロスした中で誤認識している子どもさんが何%いるかというデータを、今回のアンケートから出したところですが、目標としては、やせの子どもさんを減らすというほうがはっきりしますか。

B 委員

数値に出ますよね。数値に出て、学校でも評価をしやすいです。

その評価は、数として認識ができる。それを本人はどう思っているかは、別の話です。それを評価させるのは、子どもたちに別の教育をもっていかないといけない。

誤認識に関しては、こんなに大きくとりあげなくて、いいと思います。

本人の認識ということがあると思います。ここで同じようにのせてしまうと、分かりづらと思います。ですので、同じようにのせるのであれば、上の2つに焦点を当てる。違う教育をしていかないと、変わらない数値だと思います。

C 委員

今の議論も分かりますが、ただ、やせの傾向児を減らそうとか肥満を減らそうというのは、ハイリスクアプローチ、個々の問題になってくると思います。

あくまでポピュレーションアプローチで、全体を下げていく。あまり個々の問題に入り込むのではなくて、目標を設定していくほうがいいかと思います。

実際、やせている人たち、肥満の子たちを、なんとか、そのパーセントという話になると、学校等で個々の対応をしていく話で全体を下げていく、ポピュレーションアプローチを食育と捉えると、入り込みすぎているかと思います。

自分の体型を誤って認識する、これも、漠然としています、その背景は摂食障害などとの関係を見ようとしているのですか。

事務局

そこまでは入ってなくて、学校現場のほうで、成長曲線が導入されて、自分の身長、体重をプロットするようになっていきますので、そこを正しく子どもさんたちが理解して、自分が今、標準なのだから、そういう認識をきちんとできるようにしていればと、この目標値を挙げさせていただいたところでは。

C 委員

そういうことであれば、自分のことを理解、認識をしっかりするという大きい目標の中でなら、こういう指導はありかと思います。

やせの子や肥満の子は、全国平均に比べて、山梨は多い、それは分かっていますが、食だけで解決する問題ではないし、食育の中で、果たしてそこまで入り込むものでしょうか。

もちろん、食の問題は、糖尿病の予防にもなるし、具体的に糖尿病を減らそうという目標を立てるのかどうかということなので、考え方ですが、そこまで入らなくてもいいかと思っています。

B 委員

成長曲線は、家に持って帰ってきています。だから、自分がやせだということは分かる。ただ、それに気持ちがついていかない。だから、それだけ分かっているので、目標を少し下げたいというのがバックグラウンドにあります。

誤認識に関しては、次の段階と理解をしています。成長曲線が入ってきて、あと2～3

年もすれば、もっと厳しい評価を学校側でしてくると思います。それに残渣についても、養護の先生に、これだけ子どもが残しているという情報はまだ入っていませんが、やがて、それが入っていくような状況になってくると思います。

というのは、食物アレルギーがこれだけ増えてきている中で、これがやがて、生活習慣病に移行するだろうと考えているので、次にやることは、運動と食事だという意見を言わせていただきました。

D 委員

やせの割合、肥満の割合の減少ということで、それぞれ、挙げたときに、もう一つ、自分の体型を正しく認識している者の割合とまとめてくくってしまうのは、ちょっとという感じがします。

逆に、やせ傾向児の減少のパーセントを見ると、どきっとするようなパーセントで、元の数値をよく分かっていない人がみると、少し怖いという感じがします。

なので、むしろ、やせ傾向児の減少のパーセントを挙げ、肥満傾向児の減少ということを挙げ、それで自分の体型を正しく認識している人の割合を増やすという指標はいかがなものでしょうか。

A 委員

小学生の女の子でも、適正体重ぎりぎり、やせ傾向なのに、テレビのお姉さん方のような体型になりたいという子どもに対しては、正しい情報を伝えなければならないので、そういう部分と、現実、これだけやせ傾向の人がいるという情報と、一緒にすると、一緒に見えてしまうので、分けて考えたほうが、対応はしやすいのかもしれない。

「肥満度が普通であり、自分の体型を太っていると認識している割合の減少」、これがまさにそうで、太っていないのに、太っているからもっとやせたい、BMI 17 ぐらいが、私はちょうどいいと思っている 20 歳代女性がいるということもあります。

その認識とすれば、タイトルにある自分の体型を正しく認識している、適正体重はどのくらいということも知っていて、それが自分と比べてどうなのかということを知っている人を、大人もそうですが、認識していただく必要があると思います。

E 委員

中学生ぐらいになると、自分の体型に対して深刻に考える子どもも多いようです。

小学校の場合は、まだまだ成長期にあつて、少し横に広がったり、縦に伸びたりという、難しい時期です。

特に小学生のほうで摂食障害というのは、そんなには知りません。自分の経験上は、そういうことはないです。

中学生ぐらいになると、出てきていると思います。ストレスを抱えたりする中で、出てくるのだと思います。

自分が太っていないのに太っている、太っているのに普通だと思う子もいるということですね。

小学生の場合は家庭です。保護者の方の協力を得ながら、お子さんの成長を見守っていってあげればいいのかと思います。

そこで認識するというのが、なかなか難しい、例えば、低学年の1年生、2年生が自分の体型がどうという認識はなく、高学年ぐらいになって、そういう認識が少しずつ出てくると思います。

今は、おいしいものを食べたいだけ食べ、お腹いっぱいなのに食べたいという子もいるし、食の細い子もいますので、なかなか難しいと感じています。

ただ、子どもの頃から、自分の体を健康に、将来こういうものになりたい、ああいうものになりたいというときに、健康な体がないと、そこにはなかなか到達できないという部分もありますので、そういう面で教育は重要だと思います。

健康に自分の体を維持していくのは、子どもですから、学校でもやりますが、各家庭や地域がつながることが大事だと思います。

F 委員

学校も、それぞれ食育推進計画を立てていたり、健康カードをもとに、太りすぎ、あるいはやせすぎたりしている子に対しては、適宜、指導しているわけですが、家庭との連携というのが大変重要だと思います。

この認識について、特に小学生の場合は、仮に認識したとしても、それを自分でどう解決するかというと、保護者が食事のことを考えないとできない。自分では解決できない部分もあって、認識させることにどれだけ意味があるのかと思います。

ある程度の高学年になると、こういうこともできるかと思いますが、低学年も含めてやるというのは、難しいと感じているところです。

A 委員

中学生になると、やせるために朝ご飯を食べないという間違った知識を持っている子どももいるので、そういう点では、正しく認識するという重要性はあると思います。

G 委員

母親で集まると、やはり話になるのは、女の子だと、やせたいがために給食もどんどん減らしてほしいということがあります。

あと、立場の強いリーダー的な人が「私はこれ、嫌いなんだよね」と言うと、その周りの女の子が、「私も嫌いだから食べない」となります。

栄養を考えて作られている給食も、やはり、連带的に食べなくなるということがあると聞いています。

そういうこともあって、認識が個人個人の考えもあるかもしれないですが、中学生ぐ

らいになると、連帯的な感覚というものをもつのだと思います。

こういうアンケートを、どういう場で書いているか分からないですが、1人が「こうだよね」と言うと、「そうだよね」って、「私は、本当はこうだけど、あなたはどう書いているの?」と、そういうことも、少しは関係しているかと思います。

D 委員

そうしますと、むしろ中学生のほうの認識を上げるほうがいいのかもしれないです。やせと肥満を分けるよりは、全体としてずれているところだけを拾うというのも、一つの在り方かと思います。小学生、中学生を合わせて指標を作るのか、検討いただければと思います。他にはいかがでしょうか。

H 委員

「ふう・りん・か・ざん」の「か」の部分の「食事の時間を楽しいと感じる子ども」のところで、「子ども（幼児）の割合の増加」これは、子ども、幼児を含むという意味でよろしいでしょうか。

事務局

幼児の保護者の方の回答の中で、食事の時間を楽しいと感じる子どもの率が出ていますので、子どもというのは幼児を示します。

H 委員

「感じる子ども」とあるので、これは子どもが感じているという数字のように思えます。あくまでアンケートは保護者の方が子どもをそう思っている。

ここは誤解を招くのと、たぶん、幼児自身は楽しいと感じているかもしれない。親は忙しくて、早く食べてくれないかなという感じなのかもしれない。この書き方だと、子どもがという回答のように見えてしまうので、いかがでしょうか。

事務局

前回も、保護者が感じているのか子どもが感じているのかが分かりづらいという話がありながら申し訳ありません。ここは幼児の保護者の方が感じている割合になりますので、表現のほうを分かるように修正したいと思います。

議長

他にはいかがでしょうか。

それでは、議事（1）の⑤、食育推進の取組について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

⑤食育推進の取組について

議長

ただいま事務局よりご説明がありました。何かご意見、ご質問、ございますでしょうか。

I 委員

野菜ソムリエ団体によるPR活動を通してとありますが、JAの団体に、食育ソムリエという団体もありまして、これは、野菜ソムリエに限定しないほうがいいのではないかと思います。

食育に関して活動している団体は、いろいろあると思いますので、この団体だけに限定するというのは、疑問点があります。

事務局

市が行っている事業の一覧というかたちになります。市の農政課のほうで野菜ソムリエ団体によるPR活動を実施しているという内容になっています。

J 委員

市の事業一覧を見ますと、基本施策にはリンクされていますが、重点施策が今回出てきましたので、それが分かるような印が付けられないでしょうか。

事務局

重点施策に関連する市の事業に、例えば星を付けるなど、分かりやすく示したほうが良いということで、そこは工夫をさせていただきます。

K 委員

第2次には食生活改善推進員の活動というコラムがあったのですが、その中に、甲府市として独自のスローガンがあります。「地産地消とスローフードで、地域に広める食育の和～ヘルスマイトは健康づくりのアドバイザー～」というのが入っていました。

今回では、ただボランティアの紹介で、全国のスローガンはあるのですが、甲府市だけがスローガンとして作ったものがありますので、もし可能であれば入れていただきたいと思います。

事務局

入れさせていただきます。

議長

このコラムを見たときに、食生活改善推進員さんの、活動という字を大きくするか、というのも食生活改善推進員さんの言葉が、よく分かってもらえていなかったというアンケート結果があったので、そこをクローズアップできるような表現の仕方があるかと思ったので、ご検討いただければと思います。

A 委員

とても大切な内容がコラムに入っていますので、目次のところに、コラムの目次も入れたらどうかと思います。コラム編があって、タイトルとページがあると、そこを拾い読みしてくれるかもしれませんので、入れたらどうでしょうか。

L 委員

コラムがいいですねって話をしておりました。目次をつけて、大きくするところは大きくしていただければと思います。

M 委員

やはり、若い女性のやせの認識で、小学生、中学生、若い女性もそう、皆さん女性は、体型というものを気にします。

それが女性の根本的なさがで、そういうものだと思うので、認識して、それをいかに、どうしていくかというのが大事で、食育を通して、小学生、中学生に情報を提供するというのが大事かと思いました。

N 委員

前回、低出生体重児のことを、どこかへ入れたほうがいいという話があったと思います。

事務局

低出生体重児の内容は書かせていただいて、その評価についても、こういう傾向だということで、前回ご指摘いただいた中で、甲府市のほうが高い傾向が続いているという文言の変更はさせていただいたところです。

ただ、この低出生体重児の出生の割合について、食育のみの取組の中で、重点的に取り組んでいくというのが、なかなか難しい部分があります。

いろいろな課題から低出生体重児が誕生してくるということもある中で、私どもとしては、まず、子どもたちが、自分の体型をきちっと維持することが、特に次世代の子どもたちを担う女性が、やせの願望を強くもたないようにという取組から、随時していきたいというところです。

あえて、低出生体重児が生まれるからこうだというかたちでの書き方はしていません

が、その気持ちを込めて重点2の課題の取組とさせていただいております。

A 委員

低出生体重児ですけども、「本当に太っていますか？」のコラムに入りませんか。

低出生体重児という言葉を知ってもらおうということも必要だと私は思いますので、それなら、言葉を少し入れていただければありがたいと思います。

C 委員

食育全般のボランティアの数の増加というのは、食改さんの数のことを言っていますか。

事務局

食生活改善推進員さんと、こうふるふぁーむというボランティア団体の方々を合わせた数になります。

I 委員

こうふるふぁーむさんは予算が出ています。ボランティアではないと思います。

事務局

担当課に確認させていただければと思います。

C 委員

食改さんがほとんどだとしたら、ここを分かりやすいように、数値、目標が、ボランティアをどうするかたちでやるのかをもう少し明確に。

食改さんを中心とした数値で増加となったら、食改さんにたくさん入ってもらわないとこの数値は良くなるということ。それが、分かりにくかったということです。

議長

他にはいかがでしょうか。

事務局

先ほどの妊婦の低栄養問題が、次世代の子どもの生活習慣病のリスクを高めると危惧されていますという表現がありますが、そこに低出生体重児の出生を入れることは、いかがなものでしょうか。

B 委員

ちょっとこれは、首をかしげます。「本当に太っていますか？」のコラムの中に、低出

生体重児のことを載せないほうが、全体の文章のバランスがいい気がするので、もし、低出生体重児を入れるなら別のコラムで。

議長

他にはよろしいでしょうか。それでは、次に進めさせていただきます。議事（２）の今後のスケジュールについて、事務局のほうから、よろしくお願いいたします。

（事務局より説明）

議長

ありがとうございました。何かございましたら、ご質問等、お願いいたします。この件についてはよろしいでしょうか。

それでは、皆さまのほうから何かご意見、ご発言等ございましたら。いかがでしょうか。特にないということでしたら、以上をもちまして、本日の会議を終わらせていただきたいと思います。皆さまのご協力、本当にありがとうございました。

以 上